

バイオの力で悪臭除去

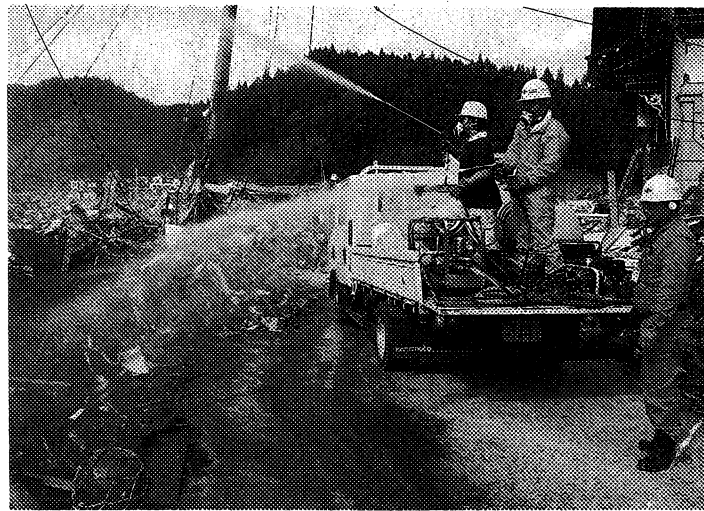
米国から支援受け消臭剤散布

気仙町で

震災後、魚などの腐臭に悩まされている陸前高田市気仙町の上長部地区で17、18の両日、東京都の㈱バイオフューチャー(吉岡克祥代表取締役)らがバイオ消臭剤の散布を行った。バクテリアが汚物や油分を分解することで、消臭や虫の発生を抑える効果が期待される。

これは、米国CID I国際災害機構からバイオ消臭剤などの物資提供を受け、被災地の浄化・消臭を行うという支援で、同市水産課が依頼。同社と北海道前高田市気仙町

の㈱バー産業、小川組土建(株)が作業に当たり、宮城県石巻市の避難所にある仮設トイレや、水産加工場などにまずで処理を施したという。上長部地区の高台には現在も居住者がいるが、震災後から悪臭が漂い始め、虫の発生も深刻な問題となっている。3社は、魚などが



死骸から出る油を吸着・分解するために油

吸着分解剤「オイルゲーター」を用い、液状にしたバイオ消臭剤「フイジータブレット」を白間かけて山手側に散布した。母屋に浸水しながらも、無事だった建物の

2階で暮らしていると、同地区の30代男性は「臭いがひどく、うじからハエが発生しているのを窓も開けられない。洗濯物は離れた場所に干すようにしている。梅雨に入ったらさらばひどくなるのでは」と心配を募らせて

おり、「消臭効果に期待したい」と話している。この消臭剤がきき始めるのは、仮設トイレなら一両日中、今回のように広範囲にわたる場合は2〜3週間ほどという。

吉岡社長(59)は「腐ったものの上からいくら薬液で『消毒』しても、時間がたてばまた菌が発生してしまふ。この土地をもう一度畑や水田に戻すには、ケミカルを使わないバイオ消臭剤が最適」と話し、効果に自信をのぞかせた。